

あなたは、 どこで、何を していましたか？



東日本大震災後、市内の女性団体等がさまざまな支援活動を行ってきました。これらの団体による活動報告会をきっかけに出来た新しいネットワークが、「3.11トークカフェ」です。第2回目の今回は、通常の活動、震災後の支援活動、今後の支援活動予定と課題、ボラン

ティアをする上で工夫したこと等について紹介しました。

また、日本女性会議の参加報告、市内の男女共同参画推進団体等の紹介のほか、各団体が自由に交流できる「おしゃべり参画（トークタイム）」が行われました。

被災者支援活動報告



【久之浜町婦人会会長】

佐藤 トミ子 (さとう とみこ) さん



【いわき傾聴ボランティア「みみ」】

代表:安島 爵子 (あじまたかこ) さん

副代表:石井 キヌ (いしい きぬ) さん



【いわき市応援隊】

柏谷 裕司 (かしわや ゆうじ) さん



【飯野婦人会】

引地 晴子 (ひきち せいこ) さん

相手の立場に立つ支援——佐藤さん

まず、自分たちのできる身近なところから、一人ひとりの力を発揮できるようにがんばっています。震災直後は、避難所において、炊き出し、名簿作り、支援物資の配布の他、避難者の取りまとめを行いました。その際、支援者はまず物資を配ることに専念し、最後に残った物をもらうよう心がけました。避難所では、子ども一人前の働き手として活動する姿が見られました。ボランティアは、活動計画が会員の負担にならず、かつ支援される相手の立場に立つよう工夫しています。自分たちでできることは自分たちでなくてはならない、それから、何かを実行する時には必ずみんなの了解を得ることが大切だと思いました。

寄り添うためには——安島さん・石井さん

私たちの活動は、相手の心に寄り添いながら、相手の言葉に耳を傾けることです。震災で心を痛めている方々には、まず私たちを信頼してもらうことが第一と考えました。そこで、炊き出しや

支援物資の配布のほか、小さな要望にこたえるボランティアを行いました。日数が経過し、しだいに支援物資よりも話を聞いてほしいという声が出始めました。そのため、プランター作りなどの共同作業でボランティアの顔や「みみ」のベストを覚えて頂き、集会所でカフェを開くなど親しみやすさを大切にしました。ボランティアをスムーズに進めるためには、地域にネットワークが出来ていると良いです。また、支援者がそれぞれの得意分野を活かすことが大切だと感じました。これからも無理のないようにがんばっていききたいと思います。

ボランティアのあり方——柏谷さん

震災2日後の3月13日から広野町、楢葉町の避難者の受け入れ支援活動を行いました。4月からはいわき市災害救援ボランティアセンターで、瓦礫の撤去、家の解体、引越し、災害ゴミの分別、アルバム写真の洗浄などの屋外作業のほか、避難所での子ども達の勉強

サポートもしました。震災の影響で電話が不通になり、アマチュア無線を使って市内のガソリン、水などの情報を得ました。北は北海道、南は沖縄で、風評被害払拭活動を行いました。今後は、ケータリングカーを使って、いわきの農水産物を全国各地で販売する予定です。これからも人とのコミュニケーションを大切にしながら、いわき市が元気になる活動を続けていきます。

<日本女性会議2012仙台の出席報告>

——引地さん

会議では、全国の多くの人々との出会い、6つの大きなセッションで、すばらしい講師の方々、コーディネーター・パネリスト・コメンテーターと出会い、そして被災地で過酷な被災に遭遇しながらも懸命に活動された体験も生の声でお聞きしました。そして、これから生きる元氣と勇気をいただきました。自分の中で、この会議で得たことについて振り返ることができ、大きな学びの体験でした。

